

平成 22 年 4 月 10 日

新 宿 区 長

法 人 名 特定非営利活動法人
東京都中途失聴・難聴者協会
所 在 地 新宿区新宿 2-13-11-1003
(フリガナ) タカオカ タダシ
代表者氏名 高 岡 正



事業実績報告書

新宿区協働推進基金条例施行規則第19条の規定により、下記のとおり報告します。

記

1 助成対象事業

事業名	字幕で楽しむプラネタリウム ～季節の星空を楽しむ～
実施日時又は期間	平成 21 年 10 月 11 日（日） 平成 22 年 3 月 6 日（土）
対象者の範囲及び人数	区内の中途失聴・難聴者、難聴児とその家族、 都内の中途失聴・難聴者
事業内容	・ 字幕付きプラネタリウムの上映（ケプラーの夢と秋の星空） ・ 字幕付きプラネタリウムの上映（消えた恐竜と冬の星空）
具体的な活動状況	字幕制作、機材設置、上映は全国要約筆記問題研究会東京支部に依頼。 台本の字幕化、上映時の投影の工夫等に協力をいただいた。字幕づくり後、難聴者の実行委員が字幕をチェック。プラネタリウムの機器操作はレガス新宿の職員が担当。 広報：新宿区の協力を得て、区内の施設に配布していただいた。ろう学校・難聴学級へはチラシを送付した。 情報保障：手話通訳・要約筆記・磁気誘導ループを用意。
事業の成果	参加者数：10月11日 61名（うちスタッフ15名） 3月6日 91名（うちスタッフ18名） 字幕投影は3年目となった。字幕づくり、機器設置にも慣れてきた。 レガス新宿との協働もすすみ、下見や試写などでいろいろご配慮いただいた。ろう学校への呼びかけも続けたところ、難聴の子ども、親の参加が増えてきた。3月は冬の星座の最終日だったため、一般の方々の参加も多かった。字幕付きと知らずに入場されていたが、開始前と後に説明をして、理解をしていただいた。受付では、ホワイトボードを用意して、筆談で対応した。最近是一部だが日本映画に字幕がつくようになり、テレビの字幕放送も増えてきた。しかし普及はまだまだである。この事業を行うことで、多くの皆さまに、字幕その他の文字情報の必要性をご理解いただけたと思う。



2 助成対象事業費内訳（実績）

※ 内訳は、できるだけ「単価×数量」で示してください。

※ 1万円以上のものについては、領収書（写し可）を添付してください。

収 入	経 費	積算根拠（内訳）		金 額
	団体負担金			151,810 円
	参加費・資料代等			円
	その他の収入			円
	協働推進基金助成金	助成金		150,000 円
	計	301,810		円
支 出 （ 助 成 の 対 象 に な る 事 業 費 の 内 訳	費 目	決算額	内 訳	
	会議費	1,490 円	コピー代（1,490）	
	宣伝費	8,067 円	チラシ用紙代（8067 円）	
	リース費	41,000 円	補聴システムリース代 41,000 円（2 回）	
	消耗品費	18,976 円	チラシ郵送用封筒代（7,716 円） 宛名ラベル（4,960 円）インク代（6300 円）	
	謝礼	66,000 円	手話通訳（6,000 円×3 人） ボランティア（3,000 円×8 人×2 回）	
	人件費	40,000 円	4,000 円×1 人×10 日（延べ）	
	材料費	10,247 円	機材（分配器[3990]・D-sub15 ピン 10m ケーブル[4980]・CD[597] ケーブル接続器具[680]）	
	交通費	15,000 円	交通費（試写・会議・当日）500×6 人×5 回	
	その他諸経費	101,030 円	字幕委託費（全要研 2 回）45,000 通信費（8,670）駐車代（900） 要約筆記派遣費 29,460（9,820×3 名）運搬費（17,000）	
助成対象事業費（小計）		301,810 円		
余 剰 金		0 円		
助成対象外事業費		円		
事 業 総 額			301,810	円

3 助成事業の成果と課題

評価のポイント	自己評価
事業を計画した当初に決めた課題について、どこまで達成できたか。	字幕づくりに慣れてきたため、今年度は字幕の質も考えて作成することを課題とした。秋の反省を踏まえて冬の字幕をつくるなども行った。表示のタイミングは読みやすくなったと思うが、漢字の量、ルビについて課題が残った。
地域にどのような効果があったか、又は今後見込まれる効果は何か。	「字幕付き」とは知らずに立ち寄りご覧になる方も多かった。文字情報が必要な人がいることを知っていただけたと思う。また、3年続けたことで、レガス新宿で「字幕付きのプラネタリウム」が見られるとの情報も少しずつ浸透したと思う。
新たに気づいた課題は何か。	本来なら、番組制作者が最初から字幕をつけるべきと考えるが、文字情報の必要性への理解は不十分である。ボランティアが、新しい取り組みを行い、研究開発するのは良いことではあるが、製作者側への働きかけが必要である。
理解者や支援者が広がったか。	パソコンや機械に詳しくない方も、字幕づくりを通じてスタッフとなっていくた。また、レガス新宿の職員も、必要な配慮をすすんでしてくださるようになった。
事務局の執行体制は十分だったか。	協力して執行した。時間、人の足りないところはボランティア、実行委員がサポートした。
今回の事業を発展させた新たな事業としてどのような事業が考えられるか。	・継続して行うことが大事だと考えている。 ・区の広報ビデオ等への字幕付与。 原稿をそのまま文字にしても読みきれないので読みやすい形に整えて字幕をつけ、高齢者、難聴者に情報が行き渡るようにする。
その他	字幕作成、投影に協力いただいた全要研東京支部に対して、日本映画への字幕付けの依頼があったそうです。プラネタリウムと同様の方法で行うということで、この事業を始めたことが、新しい活動につながりました。

4 活動の成果

*事業の成果物（冊子など）又は、事業の開催時の写真など提出できるものがある場合は添付してください。

*参加者の意見なども報告してください。

<添付資料>

- ・ チラシ
- ・ 当日配布しおり
- ・ 写真
- ・ 領収書写し（額面 10,000 円以上のもの）
- ・ 職員人件費内訳